


平成 31 年 度

兵庫県公立高等学校学力検査問題

国 語

注 意

- 1 「開始」の合図があるまで開いてはいけません。
- 2 「開始」の合図で、1ページから11ページまで問題が印刷されていることを確かめなさい。
- 3 解答用紙の右上の欄に受検番号を書きなさい。
- 4 解答用紙の  の得点欄には、何も書いてはいけません。
- 5 答えは、全て解答用紙の指定された解答欄に書きなさい。
- 6 問題は五題で、11ページまであります。
- 7 「終了」の合図で、すぐ鉛筆を置きなさい。
- 8 解答用紙は、机の上に置いて、退室しなさい。

次は、〇〇中学校の生徒会執行部役員が話し合いをしている場面である。【会話文】を読み、【資料】「生徒会規約」を参考にしながら、あとの問いに答えなさい。

【会話文】

会長

今から、一月の定例執行部会を始めます。最初の議題は、二学期に行った『学校生活アンケート』の結果についてです。副会長から説明してください。

副会長

はい。今回のアンケートで特に多かった要望は制服に関する事で、「女子の制服はスカートと決められているが、ズボンに変更してほしい」という内容でした。以前からあった要望ですが、今回は特に多く寄せられていましたので、執行部会で話し合いたいと思います。

会長

わかりました。「①」は私たち執行部の大切なしごとの一つです。皆さんの意見を聞かせてください。

書記

私は賛成です。冬は本当に寒くて……。それに、ズボンの方が活動しやすいので、私のクラスでは多くの女子がズボンの方がよいと言っています。

会計

私は反対です。在校生はズボンの購入費がかかるし、スカートが無駄になってしまいます。それに、スカートの方が夏は涼しく快適ですよ。

副会長

ここでも意見が分かれるとなると、全校生の間でも意見が分かれそうですね。②なるほど、その方法だと各自で決められるので、スカートをはきたい人も、ズボンをはきたい人も納得できそうですね。

書記

それは良い考えだと思いますが……。うーん、そもそも私たちの考えだけで、校則を変えることなんてできるのですか。

副会長

私たちだけで変えることはできませんが、③全校生で話し合った結果として、先生方に校則の変更を提案することはできますよ。

会長

五年前には、先輩方の提案で補助かばんの利用が許可されたんですよ。全校生の意見をまとめてきた校則改正案を生徒総会で可決し、先生方に提案したそうです。

書記

へえ、立派な先輩たちですね。

会計

でも、生徒総会で話し合わないといけないのなら、今年度はもう無理ですね。年に一度の生徒総会は終わったのですから。

副会長

いいえ、④再度生徒総会を開くことはできますよ。

書記

ああ、規約によれば、そうでしたね。

会長

では、このことについては、今年度中に先生方に提案することを目標に話し合ってください。それでは、次の議題に移ります。

生徒会規約

第1章 総則

第1条 本会は〇〇中学校生徒会と称する。

第2条 本会は〇〇中学校の全ての生徒で構成する。

第3条 本会は、会員の自発的、自治的な活動をとおして学校生活の改善をはかり、明るく、楽しく、規律のある学校の創造を目的とする。

第4条 本会の活動は、顧問教員の助言を受けて行う。

第2章 会員の権利及び義務

第5条 〇〇中学校の全ての生徒は、等しく本会会員として資格を有する。

第6条 会員は生徒総会での議決権を有するが、その決議には従わなければならない。

第7条 会員は全校投票により生徒総会の招集を要求することができる。会員の9割の投票数で全校投票は成立する。ただし、3学期（1月～3月）には全校投票は行わない。

第3章 執行部

第8条 本会の円滑な運営のため執行部をおき、執行部役員として会長1名、副会長2名、書記1名、会計1名をおく。

第9条 本会は第2学年から会長、第1学年、第2学年からそれぞれ副会長を選出する。また書記、会計を公募し、会長が指名する。

第10条 会長は生徒会を代表し、会務を総括する。

第11条 副会長は会長を補佐し、会長が不在のときはこれにかわる。

第12条 生徒会執行部は次の業務を行う。

- 1 予算案の作成、決算の報告
- 2 各委員会、各部活動の活動方針・活動計画の作成
- 3 会員の要望についての検討
- 4 各委員会の活動内容の検討

第13条 生徒会執行部はこの規約の改正の発議を行うことができる。

第4章 議決機関

第14条 生徒総会は本会の最高議決機関であって全会員で構成する。生徒総会は6月の定例会と臨時会から成り、いずれも会長が招集する。生徒総会での決定事項は生徒会の総意とする。

第15条 生徒総会は会員の3分の2以上の出席で成立し、議事は出席者全員の過半数で決する。

第16条 臨時会は次のいずれかの場合に会長が招集する。

- 1 評議委員会において評議委員の3分の2以上の要求があった場合
- 2 全校投票で会員の3分の1以上の要求があった場合

第17条 評議委員会は、評議委員および生徒会執行部役員によって構成される。生徒会行事、学校生活の課題、この規約の改正等の発議、その他必要なことについて審議する。

第18条 評議委員は各学級から1名選出し、各学級を代表するものとする。

第19条 本会の決定事項について、顧問教員をとおして職員会議で提案することができる。

第5章 委員会

(以下略)

問一 【会話文】の空欄①に入る適切なことばを、【資料】「生徒会規約」から抜き出して書きなさい。

問二 【会話文】の空欄②に入ることばとして最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア スカート、ズボンのどちらを制服とするか、全員の多数決で決めるのはどうでしょう。

イ 夏はスカート、冬はズボンと、着用するものを季節ごとに決めるのはどうでしょう。

ウ 二種類のズボンから、自分の着用したいものを選ぶのはどうでしょう。

エ スカート、ズボンのどちらを着用してもよいとするのはどうでしょう。

問三 【会話文】の傍線部③の発言の根拠となっている条文は、【資料】「生徒会規約」の第何条か。数字で書きなさい。

問四 【会話文】の傍線部④について、どのようにすれば今年度中に生徒総会を開くことができるか。解答欄に合うように、【資料】「生徒会規約」のことばを用いて二十字以上二十五字以内で書きなさい。

二 次の書き下し文と漢詩を読んで、あとの問いに答えなさい。漢詩は一部返り点を省略したところがある。

〔書き下し文〕

北固山下に次る(宿泊する)

王湾

客路青山の外

行舟 **A** の前

潮平らかにして兩岸闊く

B 正しうして一帆懸かる

海日残夜に生じ

(長江の)

江春旧年に入る

郷書何れの処にか達せん

帰雁洛陽の辺

〔漢詩〕

次^ル 北 固 山 下^ニ

王湾

客 路 青 山 外

行 舟 **A** 前

潮 平^{ラカシテ} 両 岸 闊^ク

B 正^{シウシテ} 一 帆 懸^{カル}

① 海 日 生 残 夜^ニ

② 江 春 入 旧 年^ニ

郷 書 何 処 達^{セン}

帰 雁 洛 陽 辺

(注) 北固山——長江下流にある山。

王湾——唐の詩人。洛陽の人。

〔唐詩選〕

問一 漢詩の形式を、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 五言律詩 イ 五言絶句 ウ 七言律詩 エ 七言絶句

問二 書き下し文の読み方になるように、傍線部①に返り点をつけなさい。

問三 空欄 A・B に入ることばの組み合わせとして適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア A 紅山 B 水 イ A 緑水 B 風

ウ A 江岸 B 月 エ A 客舎 B 道

問四 傍線部②の説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア この地は温暖で、年が改まらないうちから春が訪れる。

イ この地は戦乱がなく、春の景色は昔と変わらず美しい。

ウ この地は、春の様子が故郷とよく似ていてなつかしい。

エ この地は、故郷のはるか南方で一年中春の景色である。

問五 二重傍線部に表現されている作者の心情として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 北方の洛陽から渡ってきた雁の姿を見ると、故郷からの手紙は今

どこまでやってきているだろうかと待ち遠しく感じる。

イ 北へ渡る雁同様、故郷に宛てた私の手紙がきつと洛陽まで届いて

いるだろうと思うと、旅の寂しさも紛れる気がする。

ウ 北へ渡る雁が、今頃は洛陽のあたりを飛んでいるだろうと思うに

つけ、故郷に宛てた私の手紙の行方が気かりである。

エ 故郷に宛てた私の手紙がもう届いているのか確かめるため、北へ

渡る雁に身を変えて洛陽まで飛んでいきたい思いである。

渡る雁に身を変えて洛陽まで飛んでいきたい思いである。

三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

鎌倉の大臣殿が京へ上る意向を示したため、幕府ではその是非について評議が行われた。

〔本文〕

人々、京上あるべしや否やの評定ありけるに、上の御気色^①を恐れて、

子細申す人なかりけり。故筑後前司入道家^(今はじき)、遅参す。この事意見申すべ

きよし、御気色ありければ、申されけるは、「天竺^②に獅子と申す^{けだもの}獣は、

一切の獣の王にて候^{まゐら}ふなるが、余の獣を損ぜんと思ふ心は候はねども、

その声を聞く獣は、みな肝失ひ、或は命絶え候ふところ承れ。されば、

君は人を悩まさんと思しめす御心はなけれども、人の嘆き、いかでか候

はざらん」と申されければ、「御京上は留まりぬ」と仰せありける時、

万人悦び申しけり。④「聖人は心なし、万人の心をもて心とす」と言へり。

人の心の願ふ所をまつりごととす。これ聖人のすがたなり。

(無住『沙石集』)

(注) 天竺——インドの古称。

問一 波線部の読みは、歴史的仮名遣いでは「ひやうぢやう」となる。これを現代仮名遣いに改めて、全て平仮名で書きなさい。

問二 傍線部①の意味として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

- ア 心配
- イ 機嫌
- ウ 病状
- エ 災厄

問三 傍線部②は誰をたえたものか。本文中から適切なことばを全て抜き出して書きなさい。

問四 傍線部③のように判断した理由として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

- ア 人の上に立つ者にあえて意見を述べようとする者は少ないという現実を示され、積極的に民衆の考えを知ろうと思ったから。
- イ 人の上に立つ者が果たすべき役割を説かれたことで、自分が上京することの意義に気づき、民衆を喜ばせようと考えたから。
- ウ 人の上に立つ者が発する威圧感についての自覚をうながされ、自身の言動が民衆に及ぼす影響の大きさに気づいたから。
- エ 人の上に立つ者としての望ましい振る舞いを示されたことで、自分のこれまでの悪政に気づき、民衆の苦悩を悟ったから。

問五 傍線部④の説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

- ア 聖人は、民衆の願いに沿うよう、とにかく自分の意志を貫く。
- イ 聖人は、自分の考えにとらわれず、民衆の思いにこたえる。
- ウ 聖人は、自分の感情を表に出さず、冷静に民衆の実情を見つめる。
- エ 聖人は、周囲の反感を買ってでも、民衆のために心を尽くす。

四 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

津軽の商家に生まれた鶴は、父の平吉、母のきぬ、兄の亀吉、使用人のいと暮らしていた。ある日、平吉の旧友福沢から、鶴を福沢の養女にして、新設される開拓使仮学校女学校に推薦したいという書状が届いた。

「直截に訊くが、開拓使仮学校女学校とやらに入りたいか」

「父様は、わたしが福沢様の養女となっても、かまわないのですか」

問い返す声が、喉に絡まってしまった。

「養女云々は、福沢様も書かれておる通り、いわば方便にすぎぬ」

「では、わたしにその気があれば、お許しくださると」

「つらつら思うに」

平吉が小さく咳払いした。鶴の手のひらに汗がにじんだ。

「二百六十四年も続いた幕府さえ倒され、まさに驢事未だ去らざるに馬事到来する御時勢じゃ。これからの世は、さらに大きく動くに違いあらぬ。

となれば、おなごが高い学問を修めたり、商人として名を揚げたりしたとて、何ら別条なき仕儀となろう。お前が望むとあらば、わしに否やはない。おきぬも同様じゃ」

「母様も？」

「ああ。鶴には、名前負けせぬよう、翼を広げて大きく羽ばたいてほしい、とな」

「翼を広げて……」

胸にこみ上げるものがあつた。鶴は、じっと平吉を見つめた。

「いずれにせよ、己の心に正直に、お前が決めれば良い」

静かに言い渡すと、平吉はゆっくりと腰を上げ、店へ戻っていった。

常居の間に一人残され、何度も福沢からの書状を読み返した。読めば読

むほど、わくわくした。

福沢様が異国と見紛うばかりだと評した箱館へ渡り、母様が生まれ育った東京へ出る。そして、異人の女教師に英語を習い、異国の婦人たちに劣

らぬ教養を身につける。わたしが……このわたしが……。

夢見心地どころの話ではなかった。岩木山の頂にかかる雲にでも乗っているかのようだ。

「お鶴様、お鶴様ってば」

いしの声で我に返った。振り向くと、いしが痰壺を袂で隠して、通り庭からこちらに首を伸ばしていた。

「昼飯の支度ば手伝ってける」

「ごめんなさい。今すぐ」

福沢の書状を手早く畳んで帯の間に納めた。立ち上がるると同時に、はつとした。

もしも、わたしが開拓使仮学校の女学校に入ったら、この家はどんなになるだろう。

いし一人では、女手は足りないに決まっていた。さりとて、商いは細る一方で、女中を増やせるとも思えなかった。

それに、いま母様と離れるのは……。

「早くしてければ、亀吉様も戻って来るべ」

いしに急かされて、沓脱石の下駄を突っかけた。雲に乗った気分だったが、胸に黒雲が立ち込めていた。

それから何日も、気持ち揺れ動き続けた。「お前が決めれば良い」と言ったのは本意だったとみえて、平吉は催促がましい言葉を一切口にしなかった。

上座敷の月光菩薩像を拜んでも答えは出さず、語らいたくても唯一の知友であるあの馬も一向にやって来ない。思い悩むうちにねぶた祭りが過ぎ、今度は鶴に宛てて、福沢からの便りが届いた。

開拓使の東京権判官から札幌と箱館の判官に、七月三日附でとうとう通達が出されたというのだ。通達は『有志ノ者、推撰、至急当地之御差出下サル可ク候』と結ばれているため、早急に決断するように、とのことだった。

ねぶた囃子を耳にしたときのごとく、いや、それよりさらに激しく心がざわめいていた。鶴は、福沢の文を手にしたまま、離れ座敷へ続く廊下を急いだ。

襖の前に立つと、きぬの咳が聞こえた。

「んにゃにゃ。なんぼへずねこどだべ」

いしがきぬの背中をさすっているのが見えるようだった。

「でも、鶴や亀吉は……こんな母を持ったばかりに、もっと辛い思いを、しているのだから……これしきは、辛抱しなければ」

咳にむせびながら、きぬが応えた。

鶴は「母様！」と叫びそうになるのをすんでのところ堪えた。ここで声を上げれば、きぬの辛抱をふいにしてしまう。

「御新造様も津軽の女さなられたな。立派なじょっぱりだじゃ」

いしの声が潤んでいた。

母様は、江戸を発つ朝に今生の別れを覚悟して身内に挨拶したと言っていた。わたしには、それができるだろうか。父様や兄様にならともかく、今の母様に……。

きぬが望んでくれたように、翼を広げて大きく羽ばたきたいのは山山だ。けれど、鶴の翼は、地吹雪に襲われた雀のそれに似て、凍りついてしまっていた。

(蜂谷涼『曙に咲く』 一部表記を改めたところがある)

(注) 直截に——はっきりと。

驢事未だ去らざるに馬事到来する——一つのことが終わらない

ちに、別のことが起こるたとえ。

常居の間——居間。あの馬——鶴が心を通わせている馬。

権判官——明治時代の役職名。差出——提出すること。

へずね——「苦しい」という意味の方言。

御新造——他人の妻の敬称。

じょっぱり——「強情っ張り」という意味の方言。

問一 傍線部⑤・⑧の漢字の読み方を平仮名で書きなさい。

問二 二重傍線部ア～エの中で文法上の性質の異なるものを一つ選んで、その符号を書きなさい。

問三 傍線部①・⑦・⑩の本文中の意味として最も適切なものを、次の各群のア～エからそれぞれ一つ選んで、その符号を書きなさい。

① ア 都合よく利用する手段 イ いい加減で無責任な提案

ウ 丁寧に書かれた手紙 エ 人をおとしいる論法

⑦ ア 以前から持っていた願い イ 家族を思いやった意見

ウ 固く誓った決心 エ うそいつわりのない気持ち

⑩ ア これまで生きてきた日々 イ この世で生きている間

ウ 今の一瞬 エ これからの生き方

問四 傍線部②における鶴の心情の説明として最も適切なものを、次のア

～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 女学校入学の話の思わぬ進展に期待が高まってきた矢先、平吉が改めて何かを語ろうとしていることに緊張を覚えている。

イ 平吉が女学校入学の許可を渋るのは、きぬを氣遣ったことだと察し、平吉の発言の真意を取り違えた自分を悔いている。

ウ 平吉が女学校入学に賛成していると知ってひとまず安心したものの、他家の養女として生きることへの不安が生じている。

エ 平吉が女学校入学に賛成するのは、学問の力で商いを立て直すことを自分に期待するからだと思いき、重圧を感じている。

問五 傍線部③の理由として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 何事も一人で決めなければならないという不安が、手紙に書かれた将来の姿を思い浮かべることで喜びに変わっていったから。

イ 手紙の内容にしたがって女学校に進学し、学問に励むことが、鶴の活躍を願っているきぬを喜ばせることになると感じたから。

ウ 自分の意志で将来を選ぶことができるようになったことで、手紙の内容が実現可能な未来像として感じられるようになったから。

エ 平吉から示された女性としての新しい生き方に共鳴したことで、手紙の内容が今までと違った魅力的なものに見えてきたから。

問六 傍線部④と対照的な鶴の心情について隠喩（暗喩）を用いて表したことを、本文中から十字以上十五字以内で抜き出し、最初の四字を書きなさい。

問七 傍線部⑥の理由として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア いしのことばによって空想から一気に現実に引き戻され、家事を全ていしに任せきりにしていたことへの罪悪感が芽生えたから。

イ いしの呼びかける声には、本来しなければならない家事を怠っていた自分を非難する調子が含まれているように感じられたから。

ウ いしとのやりとりをきっかけに、自分がこの家にとって欠かせない働き手の一人であるという事実を改めて認識させられたから。

エ いしから声を掛けられたことによって、身勝手な空想から覚めるとともに、急にきぬの死が現実的なものとして迫ってきたから。

問八 傍線部⑨における「きぬの辛抱」とはどういうことか。その説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア きぬは、鶴が夢を実現する姿をこの目で見ることができたら、どのような苦しみにも耐え抜こうという覚悟で、家族から離れた孤独な闘病生活を受け入れているということ。

イ きぬは、自分の深刻な病状を気遣って鶴が夢を諦めてしまうことは何としても避けなければならないという思いから、強い意志で病の苦しみに負けないようにしているということ。

ウ きぬは、これまで鶴に辛い思いをさせてきたとの重い目を感じていたので、鶴の前では意地でも弱音を吐くまいと思い、いしにしか苦しみを訴えないようにしているということ。

エ きぬは、鶴が将来津軽の女としてこの家を支えてくれることを夢見ており、その夢の実現のために一日も早く回復しようと、家族との接触を断って治療に専念しているということ。

五 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

生命の多様性をいかに保全するかを考える際、最も重要な視点は何か。それは動的平衡の考え方だと私は思う。動的平衡の定義は「それを構成する要素は、絶え間なく消長、交換、変化しているにもかかわらず、全体として一定のバランス、つまり恒常性が保たれる系」というものである。

なぜ常に動的なものに、ある種のバランス、恒常性が保たれうるのか。それは、バランス⇨恒常性を保つためにこそ、常に動いていることが必要である、ということである。この世界において、秩序あるものには等しく、それを破壊しようとする力が情け容赦なく降り注いでいる。「エントロピー増大の法則」である。

エントロピーは「乱雑さ」と訳すことができるだろう。形あるものを壊し、熱あるものを冷まし、輝けるものを色褪せさせる。この宇宙の中で何者もエントロピー増大の法則に反することはできない。

エントロピーの増大を防ぐために、工学的発想に立てば、ものをもとと頑^Aジョウに作って破壊の力から守り抜くことが選ばれる。建物や道路や橋などの人工物はみなこの考え方によって作られる。

①、どんなに頑^Aジョウに作っても、やがて破壊の力はそれを凌駕^{りようが}する。数十年のオーダーならそれでもよいだろう。しかし生命の時間はずっとずっと長い。何万年。何億年。生命は工学的な思考とはまったく別の方法を採用した。

わざと仕組みをやわらかく、ゆるく作る。そして、エントロピー増大の法則が、その仕組みを破壊することに先回りして、自らをあえて壊す。壊しながら作り直す。この永遠の自転車^Bソウ業によって、生命は、揺らぎながらも、なんとかその恒常性を保ちうる。壊すことによって、蓄積するエントロピーを捨てることができるからである。

では、なぜ生命は、絶えず壊されながらも、一定の平衡状態、一定の秩序、一定の恒常性を保ちうるのか。それは、その仕組みを構成する要素が非常に大きな数からなっていて、また多様性に満ちているということにあ

る。

そして、その多様性は、互いに他を律することによって関係性を維持している。つまり動的平衡においては、要素の結びつきの数が夥^{おびただ}しくあり、相互依存的でありつつ、相互補完的である。だからこそ消長、交換、変化を同時多発的に受け入れることが可能となり、それでいて大きくバランスを失うことがない。

動的平衡の視点から地球を捉え直してみたい。ミクロな眼^めで見ると、地球上のすべてのものは、生物にしる無生物にしる、物質はみな炭素、酸素、水素、窒素など、さまざまな元素から成り立っていると見える。そしてこれらの元素それぞれの総量は昔から変わらずほぼ一定である。

③、それは絶え間なく結びつき方を変えながら、循環している。その循環の、直接のエネルギー源は太陽だが、元素を次々と集め、あるいは繋ぎ^{つな}変え、それをバトンタッチするもの、つまり循環を駆動している働き手はいったい誰だろう。

それは、この地球上に少なくとも数百万種あるいは一〇〇〇万種近く存在すると考えられる生物たちである。彼らがあらゆる場所で、極めて多様な方法で、絶え間なく元素を受け渡してくれているから地球環境は持続可能^{じぞく}なステイナブルなのだ。

つまり、生物は地球環境というネットワーク^④の結節点^{けつせつてん}に位置している。結び目が多いほど、そして結ばれ方が多岐にわたるほど、ネットワークは強^{きよ}靱^{じん}でかつ柔軟、可変的でかつ回復力を持つものとなる。すなわち、地球環境という動的平衡を保持するためにこそ、生物多様性が必要なのだ。

具体的に言えば、生態系における生命は、互いに食う食われるの^⑤

の関係にありつつ、一方的に他方が殲滅^{せんめつ}されることはない。それは自らの消滅を意味する。そして食物連鎖は文字通り網の目のように張り巡らされている。さらに、たとえば植物と昆虫、ヒトと腸内細菌、細胞とミトコンドリア^C、病^びゲン^{げん}体と宿主といったあらゆる結び目において、精妙な共生^{せいせう}、あるいは共進化^{きしん化}が見て取れる。

生物多様性が求められる根拠も実^⑥にここにある。生物多様性の価値は「バリエーションが多ければ、それだけ適応のチャンスが広がるから」というふうには漠然と理解されているけれど、それは生物多様性の一面でしかない。生物多様性は、動的平衡の強靱さ、回復力の大きさをこそ支える根拠なのだ。

それゆえに、もし多様性が局所的に急に失われると、それは動的平衡に決定的な綻びをもたらす。受粉の道具として品種が均一化されすぎたミツバチに次々と異変が生じている現象は、その典型的な例に見える。国家間のエゴや効率思考が先行すれば、生物多様性の理念はあつという間に損なわれてしまうだろう。地球環境はしなやかであると同時に、^⑦薄氷の上に成り立っている。

ニッチは「分際」と訳すことができる。すべての生物は自らの分際を守っている。ただヒトだけが、自然を分断し、あるいは見下ろすことによって分際を忘れ、分際を逸脱している。

ヒトだけが他の生物のニッチに土足で上がり込み、連鎖と平衡を攪乱している。私たちが共生することができず占有を求めてしまう。ヒトはもうすでに何が自分自身のニッチであるかを知らない。

ニッチとは、多様な生命が棲み分けている場所、時間、歴史が長い時間をかけて作り出したバランスである。つまり今、私たちが考えねばならないのは生命観と環境観の^⑧パラダイム・シフトなのである。

(福岡伸一『動的平衡2』)

(注) 共生——別種の生物が相互に利益を受けながら、または片方だけが利益を受けながら同じ所で生活すること。

共進化——複数の種が互いに影響を及ぼし合いながら進化していること。

バリエーション——変異。変種。

パラダイム・シフト——一般的に受け入れられてきた説明やものの見方の転換。

問一 二重傍線部A、Cの漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群のA、

エからそれぞれ一つ選んで、その符号を書きなさい。

A ア よく肥えた土^ジヨウ。 イ 時流に使^ジヨウする。

ウ 涙を見せない気^ジヨウな人。 エ 予算に計^ジヨウする。

B ア 準備体ソウをする。 イ ソウ作落語を聴く。

ウ ソウ大な計画。 エ 店内を改ソウする。

C ア 財^{ゲン}を確保する。 イ ^{ゲン}外の意味をくみとる。

ウ ^{ゲン}想的な絵。 エ 農耕文化の^{ゲン}型を探る。

問二 空欄①・③には同じ接続詞が入る。その接続詞として適切なものを、次のA、Eから一つ選んで、その符号を書きなさい。

A したがって E あるいは

ウ なぜなら H しかし

問三 空欄⑤には四字熟語が入る。解答欄に合うように漢字三字を書き、

その語を完成させなさい。

問四 傍線部②について、次の問いに答えなさい。

(1) 本文における「工学的な思考」の説明として最も適切なものを、次のA、Eから一つ選んで、その符号を書きなさい。

A 破壊力を直接受けることを極力回避しようとする考え方。

イ 想定される破壊力を上回る力で対処しようとする考え方。

ウ 長い時間をかけて破壊力を弱らせていこうとする考え方。

E 仕組みを柔軟に作って破壊力を吸収しようとする考え方。

(2) 「工学的な思考とはまったく別の方法」を説明した次の文の空欄に入る適切なことばを、本文中から六字以上十字以内で抜き出して書き

なさい。

自らを ことによって一定のバランスを保つという方法。

問五 傍線部④を説明した次の文の空欄 a・b に入る適切なことばを、それぞれ本文中から二字で抜き出して書きなさい。

a を集めて再構成し、受け渡すことで、b を駆動する結び目。

問六 傍線部⑥が指す内容として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 環境が激変しても生き残る生物があり、そのたくましい生命力が地球環境を回復する原動力となっているという点。

イ 地球上では絶え間なく生命が受け渡されているため、生態系において生物の多様性が失われることはないという点。

ウ 生物も無生物も元素から成り立っており、その総量が一定であるために地球環境の平衡が保持されているという点。

エ 生物の結びつき方が多様なため、地球環境の一部に綻びが起こっても、全体としての恒常性は維持されるという点。

問七 傍線部⑦の説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア 地球環境に対するこれまでのヒトの働きかけ方は行き詰まりを迎えており、多少の困難があっても、ヒトが新たな視点から環境を見つめ直すときが迫っているということ。

イ 分際を逸脱してしまったヒトが、他の全ての生物を見下して利用してきた結果、地球温暖化により極地の氷が解け出すなどの環境破壊が世界各地で起こっているということ。

ウ ヒトがエゴや効率を優先して生命を利用することで、その恒常性にまで影響を与えているため、地球環境というネットワークが容易に崩壊しかねない状況にあるということ。

エ 自己の利益のためにヒトが環境に与えている様々な悪影響が、多種多様な生物の働きによって打ち消されることで、地球環境は絶妙なバランスを維持しているということ。

問八 本文に述べられている内容として適切なものを、次のア～エから一つ選んで、その符号を書きなさい。

ア やわらかくゆるやかな仕組みで構成された生命は、堅固な仕組みを備えた建物とは違い、エントロピー増大の法則から外れることによって、恒常性を保つことができる。

イ 生物は、無生物を介してネットワークを形成しているため、特定の元素に生じた変化が連鎖的に他生物に及ぶことにより、生物全体に大きな影響を与える可能性がある。

ウ 生態系は非常に複雑な仕組みで成り立っており、生物と物質とが相互に依存的、補完的な関係を結ぶことで、環境の同時多発的な変化を柔軟に受け入れることができる。

エ ヒト以外の生物は、自身のニッチを守り、他の生物と食物連鎖をはじめとする複雑な関係を結ぶことにより、互いに影響を与え合いつつ一定のバランスを保っている。